

Cドライブのデータを Dドライブに移動する

Dドライブに
移動先となる
フォルダーを作成する



【図1】 [スタート] ボタン→[コンピュータ] でドライブの一覧画面を開き、Dドライブ（ここでは「ボリューム (D:)」)を開く。



【図2】 Dドライブが開いたら、右クリック→[新規作成] から [フォルダ] を選択。ファイルの移動先となるフォルダーを作成する。「ピクチャ」や「ユーザー辞書」などわかりやすい名前を付けておく。



【図3】 「ドキュメント」や「ピクチャ」のアイコンは、移動後にアイコンが自動的に変更される。「仮想メモリ」は「pagefile.sys」というファイル名でドライブのいちばん上の階層に作成される。隠しファイル属性なので、通常は表示されない。

前

ページまでの手順でDドライブを追加したら、Cドライブのデータを移動する。

移動するのは(1)「個人用フォルダー」(2)「メールのデータ」(3)「インターネット一時ファイル」(4)「IMEのユーザー辞書」(5)「仮想メモリ」の5種類。

まずは、ファイルを移動する準備を行う。準備といっても、Dドライブにそれらを保存するためのフォルダーを作成するだけ。将来、Cドライブをリカバリすると、設定が戻りDドライブに移動したユーザー辞書やメールのデータを再設定する必要があるため、

「ドキュメント」や「ユーザー辞書」など、できるだけわかりやすいフォルダー名にしておこう【図1】～【図2】。ここで作成するのは(1)～(4)のデータに対応するフォルダーのみで、(5)の仮想メモリは、とくにフォルダーを用意しなくていい【図3】。

なお、(4)ユーザー辞書や(5)仮想メモリを外付けHDDに移動すると、動作が遅くなることもある。これは、内蔵ドライブよりも外付けドライブはファイルの移動に時間がかかるためだ。外付けHDDの場合は、(1)～(3)のみを移すという設定も有効だ。

XPでは「マイドキュメント」ごと。「デスクトップ」は別の場所にある

マイドキュメント



XP

1 右クリック

図6 XPのときは「マイドキュメント」ごと、移動する。[スタート] ボタン→①[マイドキュメント] を右クリックして②[プロパティ] を選択。

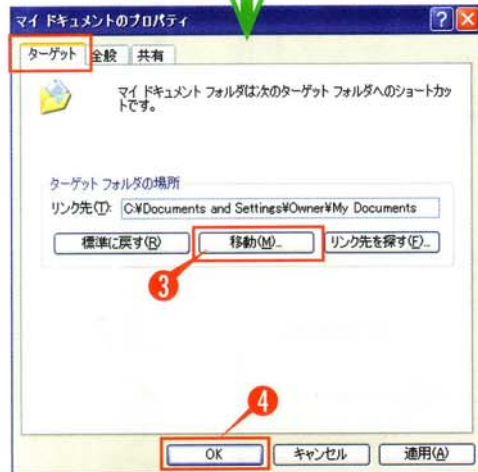
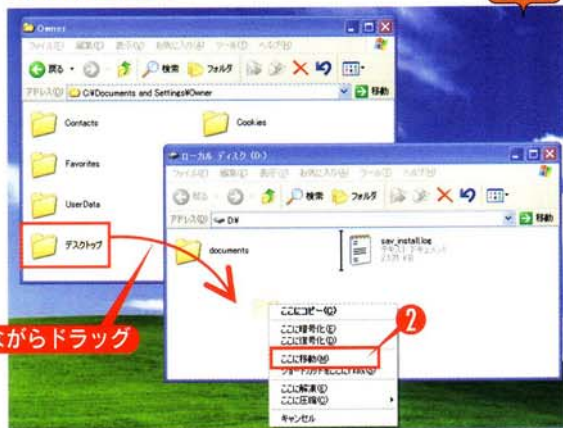


図7 プロパティ画面の「ターゲット」タブで③[移動] ボタンからDドライブにあるフォルダーを選択。④[OK] をクリックすると移動が始まる。

デスクトップ



1 右ボタンを押しながらドラッグ

XP

図8 [スタート] ボタン→[マイコンピュータ]→Cドライブの「Documents and Settings」→(ユーザー名) フォルダを開く。①「デスクトップ」フォルダを右ボタンを押しながらDドライブにドラッグし②「ここに移動」を選択。移動完了後に再起動するとDドライブに設定される。

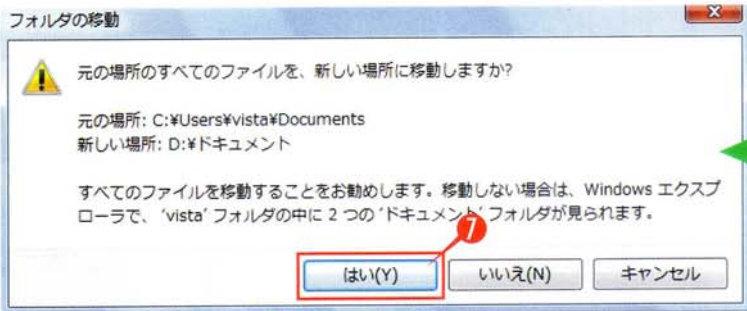
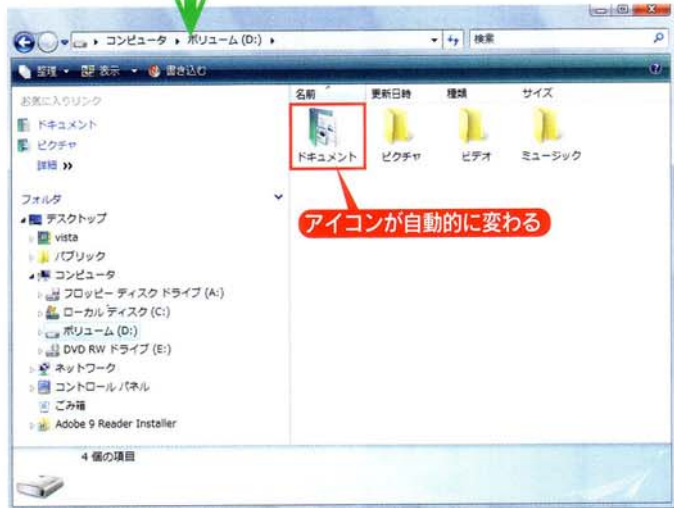


図4 「フォルダの移動」画面が開く。「新しい場所」にDドライブに作成したフォルダーが選択されているのを確認して⑦[はい] をクリック。ファイルの移動が始まる。



アイコンが自動的に変わる

図5 Dドライブを開き、アイコンが変更されていることを確認する。変更されていれば、以後、スタートメニューからそのフォルダを開くと、Dドライブにあるフォルダが表示される。

「マイドキュメント」画面から、「場所」を45ページで作成したDドライブ内のフォルダに指定することで移動できる【図2】。移動後はフォルダのアイコンも変更される【図5】。

基本的には、個人用フォルダにあるすべてのフォルダを移動可能だが、なかには注意が必要なものもある。たとえば「デスクトップ」フォルダを外付けHDDに移動してしまうと、接続が外れたときに、フォルダ画面やデスクトップ画面からアイコンが消えてしまうためそのまましておいたほうが無難だ。また、「お気に入り」を移動すると、インターネットエクスプローラーのバージョンによってはお気に入りの新規追加ができなくなる。何かしらの不具合が起きた場合は、【図2】で「標準に戻す」を選択すると、元の設定へ戻すことができる。

なお、XPの場合は、「マイドキュメント」フォルダの下に「マイピクチャ」や「マイビデオ」などのフォルダが置かれており、マイドキュメントごと移す【図6~7】。また、デスクトップは「Documents and Settings」フォルダのユーザーフォルダにある「デスクトップ」フォルダをDドライブにドラッグして移動すると、自動的にデスクトップの場所がDドライブに設定される【図8】。

断片化の原因になりやすい インターネット一時ファイル を移動する

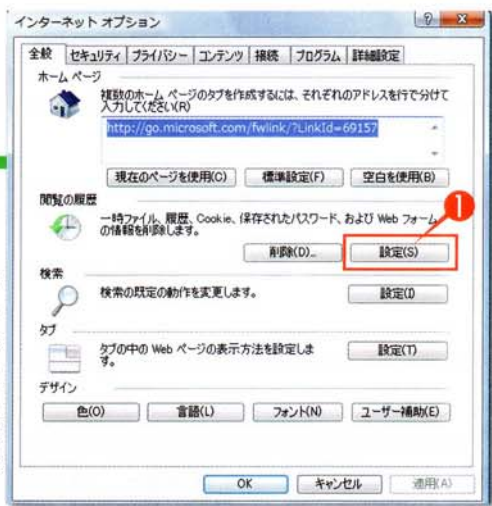


図1 インターネットエクスプローラーのメニューバーから「ツール」→「インターネットオプション」を開き、「閲覧の履歴」にある①[設定]をクリック。

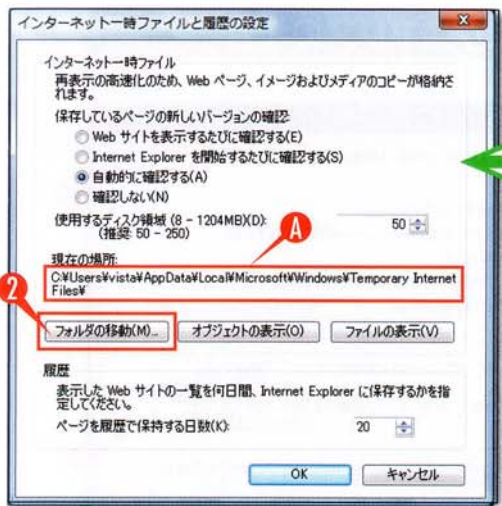


図2 「インターネット一時ファイル」の②[フォルダの移動]をクリック。不具合が起きたときのために③[現在の場所]を控えておく。

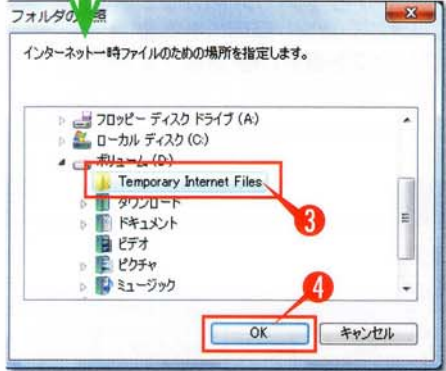


図3 ③Dドライブに作成したフォルダ(ここでは「Temporary Internet Files」)を選択して④[OK]を押す。

エブを見ているだけでも、Cドライブの断片化は進む。その理由はウェブ閲覧時にたまる「インターネット一時ファイル」にある。このファイルは、一度見たページを保存しておき、再度開くときにすばやく表示できるようにするもの。Dドライブに移すことで断片化を抑えられる【図1～3】。

ただし、ネット動画配信サイトなど、一部のサイトでは、Dドライブに一時ファイルを移すと見られなくなることもある。そのときは図2で控えておいたフォルダの場所に戻そう。

ウ

バックアップをわすれがちな IMEのユーザー辞書を 移動する

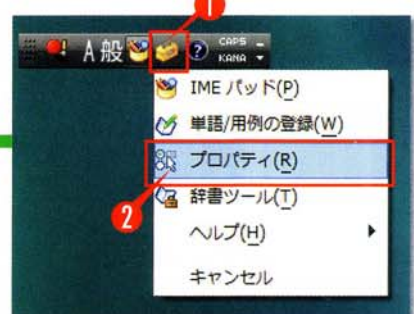


図1 言語バーの①[ツール] ボタンをクリックして②[プロパティ] を選択する。

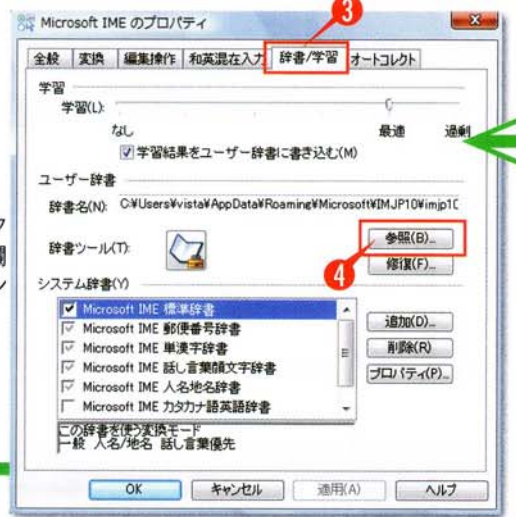


図2 ③[辞書/学習] タブの「ユーザー辞書」欄にある④[参照] ボタンをクリックする。



図3 「ユーザー辞書の設定」画面が開くので、Dドライブのフォルダに⑥「imjp~.dic」ファイルをドラッグ。再び「ユーザー辞書の設定」画面に戻り、Dドライブに移動したファイルを指定して「開く」を押す。

「ユーザー辞書の設定」画面から、Dドライブへの移動、設定をまとめて行う方法を紹介している【図1～3】。

日

本語入力ソフト「MS-IME」のユーザー辞書も、Dドライブへ移しておくといい。容量的にはたいしたことないが、IMEの辞書ファイルはOSの再起動時に、うっかりバックアップし忘れることが多い。最初からDドライブに移しておけば、バックアップの手間も省けて便利だ。ここでは

仮想メモリの保存先を Dドライブに作る

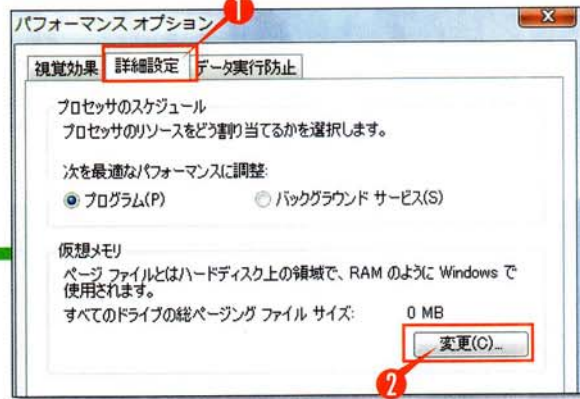
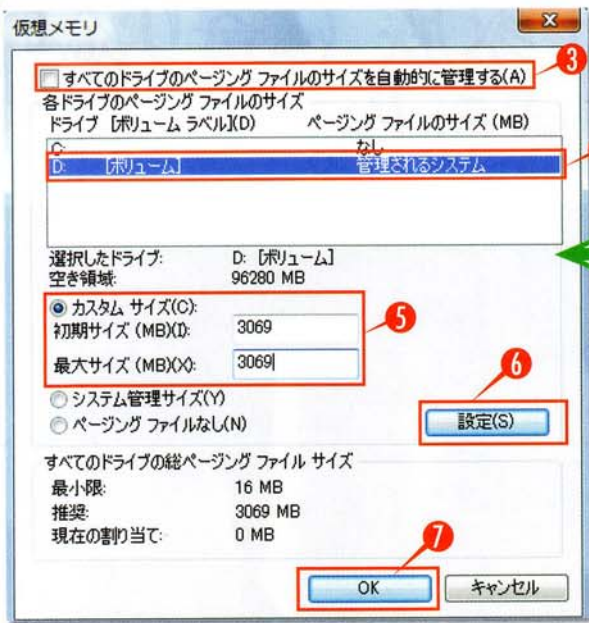


図1 34ページの手順で「パフォーマンスオプション」画面を表示する。①[詳細設定] タブの②[変更] をクリック。

図2 ③[すべてのドライブの~] のチェックを外して④Dドライブをクリック。⑤[カスタムサイズ] にチェックを入れて初期/最大サイズともに「推奨」の容量を入力して⑥[設定] を押して [OK] をクリック。再起動すると設定が反映される。

仮想メモリ領域が残ったままになっていないか確認している。移動後はCドライブに仮想メモリ領域が残ったままになっていないか確認して

34ページの手順でCドライブの仮想ファイルが無効にした状態から、Dドライブに仮想メモリを設定して

書きが行われるため、Cドライブの断片化を抑えることができる。ここでは、

メモリが4GB以上あるなら無効にしてもいいが(34ページ参照)、

書きが行われるため、断片化の原因となる。メモリが4GB以上あるなら無効にしてもいいが(34ページ参照)、

iTunesの場合



図1 今までに作成してあるデータを、事前にDドライブにコピーしておく。iTunesを起動して、メニューバーの [編集]→①[設定] をクリックする。

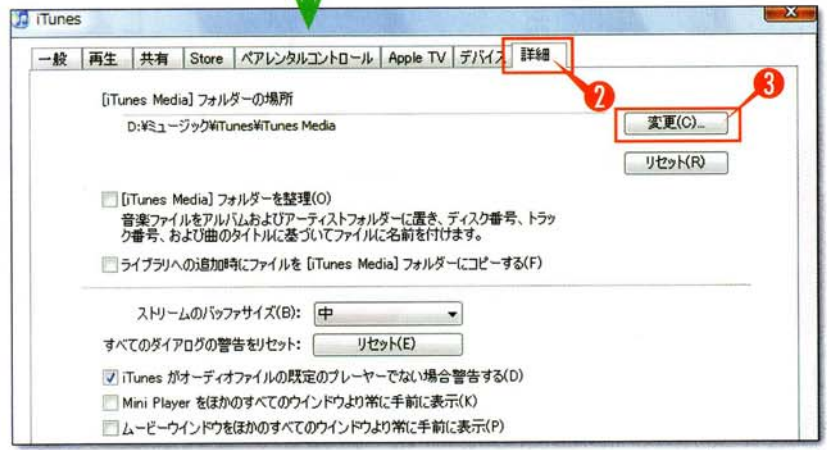


図2 ②[詳細] タブを開き、③[変更] ボタンをクリック。Dドライブにある移動先のフォルダーを選択する。その後に表示される画面で「ファイルを結合」にチェックを入れて [OK] を押す。

アプリケーションのデータ保存先を変更する

多くのアプリケーションは初期設定では、作成したデータをCドライブに保存する

設定となっている。画像や動画、音楽などの容量の大きいファイルをあつかうアプリケーションは、データの保存先をDドライブにしておこう。ここでは、音楽管理ソフトの「iTunes」を例に解説する。iTunesを

起動後、設定画面からフォルダーの場所をDドライブに変更する【図1】。これでiTunesで取り込んだ音楽データはDドライブに保存される。なお、すでにCドライブにあるデータは移動されないで事前にコピーしておく。他のアプリケーションもiTunesと同様に「設定」画面から保存先の変更を行うものが多い。

作成文書が保存されている個人用フォルダーを移動する

ファイルの保管場所をDドライブにする

移動時に気をつけたいフォルダー

文書や動画などが保存されているフォルダーは移動してもとくに問題はない。デスクトップは移動先が外付けHDDの場合、接続が外れると不具合がおこることがある。アプリケーションが作成したフォルダー（アイコンが通常のフォルダーのもの）は移動後にアプリケーション側の設定が必要となる（51ページ参照）。検索やお気に入り、ウィンドウズの機能とかかわっているので、移動しないほうがいい。



ドキュメント、ピクチャ、ビデオ、ミュージック



デスクトップ、アプリケーションが作ったフォルダー



お気に入り、ダウンロード、アドレス帳、リンク、検索

- ※○…移動していいフォルダー
- ※△…外付けHDDには移動しないほうがいいフォルダー
- ※×…移動しないほうがいいフォルダー

7 ピスタ

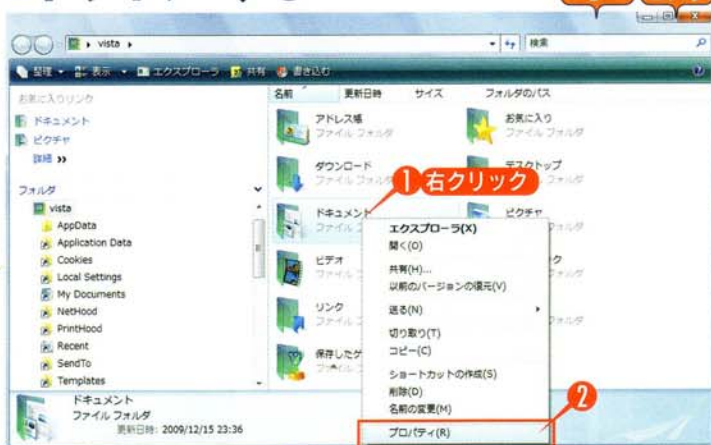


図1 「スタート」メニューの右上にある「(ユーザー名)」をクリック。個人用フォルダーが開き、「ドキュメント」「ピクチャ」などのフォルダーが並ぶ。移動したいフォルダー（ここでは「ドキュメント」）を①右クリックして②「プロパティ」を選択。

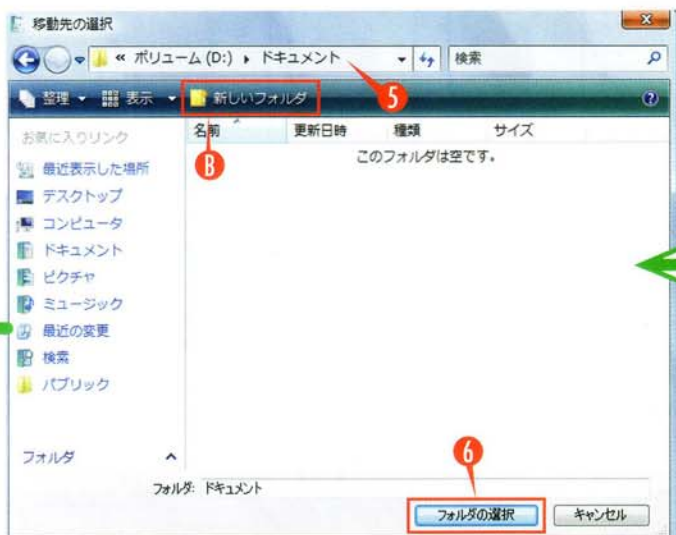


図3 45ページでDドライブに作成しておいた⑤移動先のフォルダー（ここでは「ドキュメント」）を開き、⑥「フォルダーの選択」をクリックする。⑥「新しいフォルダー」から新規に作成することもできる。

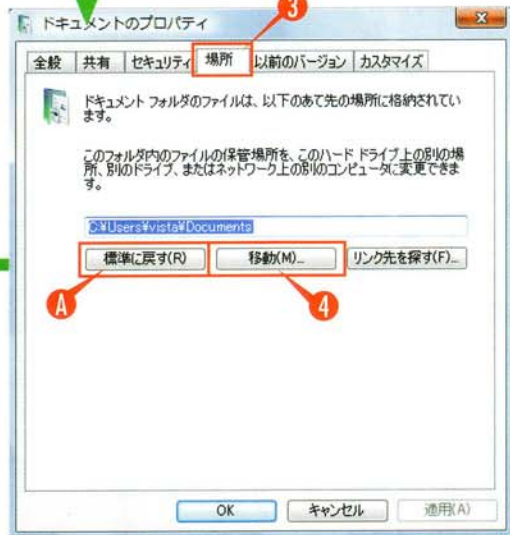


図2 プロパティ画面が表示されたら③「場所」タブを選択して④「移動」をクリック。移動後に不具合が起きた場合は、①「標準に戻す」からフォルダーを元の位置へ戻せる。

各フォルダーの場所をDドライブにする

スタや7では、作成した文書や写真などは、ユーザー名の付いた「個人用フォルダー」内の「ドキュメント」や「ピクチャ」などの各フォルダーに保存する。こうしたデータ類は容量が大きいものも多く、増え続けるのは確実だ。これをDドライブに移動することで、Cドライブを大幅に軽量化できる。

しかし、ただファイルを移動しただけでは「スタート」メニューの「ドキュメント」などをクリックしてもCドライブにある各フォルダーが開くだけで使い勝手がよくない。そこで、これらのフォルダーの場所をDドライブに設定しよう。この設定を行うと、個人用フォルダーにある「ドキュメント」フォルダーに保存したファイルがDドライブに保存されるようになる。「スタート」メニュー右上にある「(ユーザー名)」をクリックすると個人用フォルダーが開き、「ドキュメント」や「ピクチャ」「デスクトップ」などが表示される【図1】。各フォルダーの「プロ